

学校自己評価報告書  
令和4年度（2022年度）

令和5年（2023年）6月

学校法人電波学園  
あいちビジネス専門学校 専門課程

学校評価委員会

委 員 長	竹下 啓太 (校長)
委 員	小栗 宏之 (教務科長)
	清水 義徳 (渉外科長)
	坂野 恭子 (事務長)
	林 久實 (指導主任)
	粥川 暁仁 (教務主任)
	成田 和弥 (広報主任)

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 2
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 3
	(1) 教育理念・目標	P 3
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5
	(4) 学修成果	P 7
	(5) 学生支援	P 8
	(6) 教育環境	P 9
	(7) 学生の受入れ募集	P 10
	(8) 財務	P 11
	(9) 法令等の遵守	P 12
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 13
	(11) 国際交流	P 14
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 15

## I 学校の現況

(1) 学校名 あいちビジネス専門学校

(2) 所在地 〒460-0026  
名古屋市中区伊勢山2丁目13番28号

### (3) 沿革

昭和53年9月	あいちビジネス専門学校の前身、名古屋ビジネス専門学校を名古屋市中区熱田区伝馬に開校
平成16年4月	あいちビジネス専門学校に校名を改称
平成17年4月	名古屋市中区熱田区伝馬から名古屋市中区伊勢山に校舎移転
平成26年4月	職業実践専門課程文部科学省 認可 医療秘書科 医療情報管理科 販売ビジネス科 ITビジネス科
平成29年4月	職業実践専門課程文部科学省 認可 医薬ビジネス科
令和3年4月	医療情報管理科を医療IT科に科名変更

### (4) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限
商業実務専門課程	医療秘書科	2年
商業実務専門課程	診療情報管理士科	3年
商業実務専門課程	医療IT科	2年
商業実務専門課程	医薬ビジネス科	2年
商業実務専門課程	販売ビジネス科	2年
商業実務専門課程	ITビジネス科	2年
商業実務専門課程	国際ビジネス科	2年
商業実務専門課程	医療事務科	1年

### (5) 学生数および教職員数（2022年5月1日現在）

学生数 : 487名  
 教員数 : 専任17名 講師28名  
 職員数 : 3名

### (6) 施設の概要

#### 1号館

普通教室、パソコン実習室、医薬実習室、多目的室、ゼミナール室、職員室、事務室、校長室兼応接室、就職指導室兼図書室、講師室、保健室

2号館

普通教室、パソコン実習室、医療実習室、マナー実習室、大講義室兼多目的室、ゼミナール室、学生ホール、職員室、事務室、校長室兼会議室、就職指導室、応接室、講師室、保健室

## II 評価の基本方針

- (1) 学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況や学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。
- (2) 自己評価結果の客観性、透明性を高めるとともに、設置学科に関連する団体、企業、医療機関、卒業生など、学校と関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、規程に基づき学校関係者から選任した外部委員による「学校関係者評価委員会」を設置し学校関係者評価を実施する。
- (3) 当該委員からの助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。また、その評価結果と改善への取組を本校公式ホームページに掲載し広く社会へ公表する。

## III 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を具現化し、社会人としてふさわしい資質を持ち、社会発展に貢献できる人材を育成する。
- (2) 社会・企業からのニーズを取り入れ、必要とされる最新専門知識を修得させると共に、社会が求める人間性を培い、周囲から信頼され、健全な社会感・人生観を持った人材育成教育を実施する。
- (3) 変化の激しいビジネス社会に対応するため、企業・関連団体との連携を密にし、日々進化する社会に対応できる考え方を持ち合わせた人材育成を行う。
- (4) 教職員は、学生の伴走者であることを自覚し、学生個々の将来像を見据えた教育を行う。

#### IV. 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	4	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・家族（父母等）・関係業界等に周知されているか	4	3	2	1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

##### ①課題

- ・入学後の進路変更者が全くない状況ではないため、より一層明確で丁寧な広報が必要であると思われる。
- ・コロナ禍により家族（父母等）との対面による接触が減少した。教育懇談会はオンラインなどの非対面での実施が50%程度であった。

##### ②今後の改善方策

- ・SNS等で学校の普段の様子を伝えることにより、より本校の特色を伝えていくことができるものと考えられる。入学前に学校理解を深めてもらえる機会を増やし、入学後のミスマッチを防いでいきたい。
- ・対面を中心とした教育懇談会を早期に実施し、家族（父母等）の協力体制を整えていきたい。

##### ③特記事項

- ・各学科は、教育目標および人材育成像をもとに、教育課程表を作成してシラバスを策定している。教育課程編成委員会での委員からの意見を参考に、教育課程の見直し、授業内容への追加など順次行っている。
- ・本校への入学検討者やその保護者等に対して、学校パンフレット、公式ホームページ、オープンキャンパスなどの広報活動を通じて学校の理念、目的、育成人材像など十分に伝える機会が設けられている。
- ・業界の就職担当者等を招いた職業セミナーを実施し、業界のニーズについて学生の理解を高める機会を設けている。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

- ・教務系システム、就職管理システムについて、他システムとの連携が図られていない。
- ・学園内、学内の書類について押印を無くす取り組みは始まっているが、本格的なペーパーレスまでは取り組まれていない。

②今後の改善方策

- ・出願システムと連動した教務系システム導入について教務委員会で検討が始まった。
- ・学園内に DX 推進委員会が設置され教職員の業務の見直し、改善の議論を行っている。必要に応じて教職員を対象とした研修実施も今後計画していく予定である。

③特記事項

- ・学園建学の精神と共に、理事長より年度始めに示される学園の運営方針に基づき、校長より学校運営方針が示される。その目標達成に向けて各教職員が業務を遂行する体制が継続されている。
- ・組織図、職務分掌表により、業務分担が明確に示されている。また、意思決定については、そのプロセスが確立しており、各部署から提出された稟議書は、管理監督者を通じ校長・理事長の承認を得て確定事項となる。特に重要な案件や、新規案件、大幅な変更が伴う事項などは、事前に校長・理事長に具申し、事業計画として立案した上で、理事会の承認を得ている。
- ・学園就業規則において、人事および給与等に関する規程が整備されている。変更が生じた場合には、学園教職員エクストラネットにて諸規程変更条項対照表（新・旧対

照表) が公開され、教職員へ周知されている。

- ・情報公開については、公式ホームページ、パンフレット等により適正に公開している。SNSによる情報公開も行っている。

### (3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題

- ・教育課程の変更を順次行っているが、今後も教育課程編成委員会での意見や業界団体、企業採用担当者、卒業生へのヒアリング内容等からニーズを取り込み、授業内容の改善、教育課程の変更を行う必要がある。
- ・新技術への対応、今後のニーズへの対応など時代の変化に即した研修への教職員参加が必要であるが、今までと同じ団体の研修への参加がほとんどである。

②今後の改善方策

- ・授業アンケート、関係者の意見をもとに授業内容の改善や教育課程の変更を継続して検討、実施していく。
- ・新設学科の設置、学科の再編についての検討を継続。
- ・既存の協力体制のあった団体のみならず、他の団体が実施する研修への参加も検討し、教職員の研修参加の機会を増加させていく。

③特記事項

- ・業界関係者、教育課程編成委員等意見を参考に5学科の教育課程を2022年度から変更を行った。
- ・公開授業を実施。意見交換会では具体的な授業手法やアイデアについて情報共有を行うことができた。
- ・2022年度より全学生、全科目対象の「授業アンケート」と、卒業クラス学生に対しての「学生生活を振り返ってアンケート」のWeb化を行った。「学生生活を振り返ってアンケート」はITビジネス科の卒業研究による作品の一部である。
- ・ITビジネス科について2023年度よりkintoneを取り入れた授業展開を行うため教員研修を開始した。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
○資格取得の向上が図られているか	4	3	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
○卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

- ・退学率は、前年度と比較し若干増加。経済的な影響も大きかったが、進路変更、病気療養などによる退学もあるため、引き続き退学者を限りなく減少させる取り組みの継続が必要である。
- ・コロナ禍において、企業等から卒業生の活躍状況など情報収集する機会が減少してしまった。情報収集の機会確保が課題である。

②今後の改善方策

- ・欠席状況に応じた面談の徹底、継続。早い段階での家庭連絡、面談の実施。カウンセラーとの意見交換、面談を実施。
- ・入学前のオープンキャンパスなどへの参加の際に、学校方針、学科内容の説明を更に徹底するとともに、入学後の個人面談、家庭連絡を継続する。
- ・オンライン、CBT などによる検定試験実施のサポートを継続。
- ・メイン資格取得の合格率アップを図るため、Thanks ドリルの活用継続とともにeラーニングの更なる導入・活用、デジタル教材の作成・活用を行う。
- ・病院訪問の機会を増やし情報収集を行っていく。

③特記事項

- ・就職希望者はほぼ全員就職決定し、例年同様に高い就職率を維持している。履修学科に関連した分野への就職率も高く、専門学校としての役割を果たしている。
- ・市民病院、大学病院への公務員・正社員としての就職内定実績を継続している。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
○家族（父母等）と適切に連携しているか	4	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
○高等学校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	2	1

①課題

- ・高等教育の修学支援新制度の対象機関として、給付型奨学金、授業料減免の対象者の事務手続き面でのフォロー業務が増加。対象者の学習面のフォロー継続も課題である。
- ・既卒者を対象とした求人情報を学内で情報共有できる取り組みを行っているが、卒業生とのマッチングは、タイミングが難しい状況である。
- ・在学中に取得できなかった資格について、個々の卒業生に対する資格取得支援は実施しているが、卒業生も含む社会人を対象とした講座、勉強会などは実施できていない。

②今後の改善方策

- ・高等教育の修学支援新制度の事務手続きについて、奨学金担当者だけでなく他の教職員も説明会に参加させるなど、全教職員が理解を深める取り組みを行っていく。また、対象学生の個別面談を年に2回実施。担任および教務担当、奨学金担当でフォローを継続する。
- ・経済的に支援が必要な学生に対して制度の周知徹底を継続し、退学を抑止する。
- ・再就職を検討している卒業生の情報共有できる体制を整えていきたい。
- ・卒業後の再教育プログラムについて、引き続き検討していく。

③特記事項

- ・就職に関しては、求人受付、就職指導、企業対応等、就職関連業務を担当する就職担当者と担任等が連携し学生の個別指導を実施している。
- ・進学希望者（大学編入等）に対しては相談担当者を設置し、随時相談に対応している。
- ・Thanks ドリルの活用による基礎学力向上、就職 SPI 対策を実施している。
- ・学生相談センターを併設しており、入学ガイダンス時に学生にも案内。学生の希望により利用できる体制が整っている。
- ・昨年度に引き続き、教育懇談会をオンラインの利用（Web 形式）と、来校（対面形式）を併用した、ハイブリッド形式で実施。

（6）教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ・新型コロナウイルスによる感染症の状況により、海外研修、学校行事等について実施できていないものがあつた。

②今後の改善方策

- ・コロナ後の状況に合わせた学校行事の実施を計画していくと共に、中止となっていた海外研修の実施再開の検討を行う。

③特記事項

- ・学習環境向上のため、パソコン等の情報機器を計画的に導入し、併せてソフトウェアの更新も定期的に行っている。
- ・防災対策として学生および教職員分の防災備蓄品を各号館に配置している。
- ・すべての普通教室にプロジェクタ設置完了。以前から設置されているものについても定期的に更新している。
- ・学校行事については、感染症拡大状況を考慮しながら一部分散実施した。一部行事については感染症拡大防止のため昨年度に引き続き実施しなかった。「学生生活を振り返ってアンケート」では、コロナ禍でも可能な限り行事を実施したことに好意的な意見が多く、満足度も高かった。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

- ・進路選択のミスマッチを防ぐためにも情報をより正確に分かりやすく伝える工夫は、今後も必要である。

②今後の改善方策

- ・本校公式ホームページ、SNS への動画コンテンツ活用を増やし学生の学校生活、トピックスなどのリアルな情報発信を継続する。オープンキャンパスの体験授業への動画活用も継続し、発展させていく。
- ・学生の受け入れ募集に関しては、SNS の強化により、LINE での入学相談件数が増加している。新募集システムのデータを活用しながら、SNS を通じた効果的な学生募集を行えるようにしていく。
- ・オープンキャンパスの学生スタッフの活用をより組織的なものにレベルアップするため、学生スタッフリーダー対象事前指導会を実施。学生スタッフと教職員による意見交換を実施し、学生スタッフの意識向上を図っていく。
- ・安易な早期進路決定を防ぐため、オープンキャンパスへの複数回参加への取り組みを引き続き行う。
- ・高等学校との教育連携を図るための情報発信をさらに強化する。

③特記事項

- ・学生募集に関しては、真実性、明瞭性、公平性、法令遵守等、十分な検討がなされ適正に行われている。
- ・学納金は、社会情勢や同種他校の状況と本校の収支計画を勘案し、評議員会ならびに理事会で決定される。在学生数、教育環境の充実等を考慮し、適切な金額となるよう設定している。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

- ・少子化がより進展し、専門学校の経営環境は厳しくなることを考慮し、一層の財政基盤安定が求められる。

②今後の改善方策

- ・社会が求める人材育成のため、学科の新設や、施設・設備の充実、学生満足度を高める取り組みを行い、入学生増に繋げ、財務の更なる安定を図る。
- ・中長期的な視点での学内組織の変更、教職員構成の見直し、経費節減の施策等を継続する。

③特記事項

- ・会計監査は、毎年1回外部監査人である公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、備品等の監査が行われている。また、内部監査規定による内部監査を年3回実施しており、適正な監査が実施されている。
- ・予算策定は、予算委員を選出し、学生収納計画や繰越収支差額、新規事業等を考慮し学園法人事務局と協議の上、予算書を作成。評議員会ならびに理事会の承認を得ている。
- ・私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て、法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は、学園のWebサイトにて毎年更新公開している。
- ・学園全体の財務基盤は、借入金等の負債は無く、資金流動性に富んでおり、賢固な基盤を有している。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

①課題

- ・個人情報保護の対策は取れているが、常に意識を高めるため、継続した研修会等の実施が必要である。
- ・学校評価委員及び学校関係者評価委員から提起された問題点については、改善に努めているが、具現化できていない状況もある。

②今後の改善方策

- ・自己評価の改善点については、直ちに改善できる項目と改善が中長期にわたる項目とに分け、改善状況を随時チェックできる体制を確立する。

③特記事項

- ・入学時に配布する「学生便覧」に個人情報の取り扱いについて詳細を明記し、別途配布する個人情報承諾書に本人、及び家族の署名、了承を得ている。
- ・学校自己評価報告書、学校関係評価報告書、電波学園財務情報を本校公式ホームページに掲載し、情報を公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

- ・地域に対する公開講座や教育訓練等については、実施していない。
- ・単発的な学生ボランティアの案内などは実施しているが、全体的なボランティア活動への意識向上にまでには至っていない。

②今後の改善方策

- ・試験会場や各種研修会の会場としての校舎貸し出しなど、まずは実施できることを再開していく。
- ・引き続き新たなボランティア活動への取り組みを模索し、活動への参加を奨励するとともに、学生の意識向上に努める。

③特記事項

- ・昨年度に引き続き愛知県高等学校商業教育研究会との高専連携事業として、高校教員を対象としたタブレット端末を用いて Microsoft Teams を活用した授業展開についての講義を実施。
- ・商業高校からの依頼で、生徒の事務職インターンシップを今年度も実施。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

①課題

- ・コロナ禍により留学生が激減していたが、入国規制が解除され多くの留学生が入国しており、2024年度の入学対象者の大幅な増加への対応が必要である。

②今後の改善方策

- ・日本語学校訪問を定期的に継続し、情報共有を図る。
- ・留学生を対象としたキャリアガイダンスの継続実施。
- ・次年度以降の留学生数増を想定し、就職先の更なる拡大のため情報収集、情報提供を行う。今まで留学生の採用実績のない企業への留学生採用についてのヒアリングを実施。

③特記事項

- ・2020年度から留学生キャリアガイダンスを実施。留学生の就職活動の意識向上を図ると共に就職先決定にも寄与している。2022年度は7月に実施。
- ・学修・生活指導については、クラス担任、教科担当、教務担当部署において適宜実施している。また定期的（随時を含む）に個人面談を行い、出席指導、アルバイト管理等を行っている。
- ・出入国在留管理局主催の情報交換会に参加し、留学生受入れの現状理解と情報収集を行っている。
- ・学園姉妹校の愛知工科大学外国語学校と連携し、広報・入試・生活指導・教育指導等の情報収集および情報交換を実施している。
- ・留学生の入国状況、在籍状況把握のため日本語学校訪問、情報交換を継続している。日本語学校での本校認知度が高くなっている。

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 学園の「建学の精神」、学園理事長の「運営方針」を受け、学校長より全教職員に「学校運営方針」、「学校目標」が示される。併せて学科目標、個人目標を策定し、目標系統図を作成して、カレッジの目標、学科の目標、個人の目標の見える化を継続している。教職員が一丸となって目標や計画の遂行にあたっている。教職員の教育に対する方向性の認識は統一されており、「こたえを出す学校」として概ね良好な状況が続いていると思われる。学園各校所属長・各校管理監督者が出席する学園合同会議において、昨年度の振り返りや本年度の目標・計画を発表し、その実現に向けて日々努力する体制を整え、さらに年間数回、理事長をはじめとする法人事務局職員と本校幹部教職員による協議会を実施し、年度の中間報告、予算執行状況等を確認し修正している。
2. 2022年度より5学科において教育課程の変更を行ったが、今後も社会のニーズをいち早く把握し、カリキュラム、授業内容の変更について検討を継続する。特にICTの分野は変化が早いため、主にITビジネス科においては最新技術を取り入れた教育ができるよう、教員のスキルアップも継続的に行う必要がある。
3. 高等学校との教育連携を引き続き強化し、高等学校教員にとって有用な情報提供、支援活動の提供を継続、発展させていく。留学生の採用を積極的に行っている企業の更なる開拓、連携も継続していく。
4. コロナ禍においてオンライン授業の実施など学校の教育方法の変化が急激に進んだが、人との関わりを大切にした教育こそが本校の特色である。学生や家族（父母等）からの評価も、資格取得と学校行事を両輪とし、就職できる学校であることが大きいと思われる。
5. 国際交流の分野においては、学園内で本校と愛知工科大学外国語学校がイニシアチブを取り、留学生の募集、受け入れから就職および進学まで行うために必要な情報収集を実施していく。また、学園姉妹校に対して情報提供ができるような仕組みを作っていく必要がある。